

2024年9月2日



# 「すまいる」の支援②

～活動プログラム:5領域の支援～

北但広域療育センター風  
児童発達支援センター「すまいる」



# 5領域の支援

活動によっては、  
領域が重なるこ  
ともあるよ～

健康・生活

人間関係・社会性

運動・感覚

言語・コミュニケーション

認知・行動



## 健康・生活



### 主なねらい

- ①健康状態の把握
- ②安心できる環境作り
- ③生活力に繋がる遊びの提供



2歳

### 健康状態を把握する

- ・視診、検温をして健康状態を確認する。  
(その日の体温は、来所時に体温記録用紙に記入してもらう)
- ・直近の健康状態を家族の方に聞く。

### 手洗いの習慣化 (スケジュール・手順書)

3歳

#### トイレトレーニング

- ・排泄面での快・不快を知る。
- ・トイレの場所に慣れる。
- ・時間を見ながらトイレに誘う。  
(スケジュール活用)
- ・尿意に気づく。

#### 生活力に繋がる遊び

- ・着替え動作に繋がる遊びをする。
- ・手指や全身を使う遊びをする。
- ・終わりが分かる。  
(籠に入れておしまい等)
- ・イラストを使って歯の磨き方を知り、経験する。
- ・絵本を見て仕方を知る。  
(歯・排泄・着替え)
- ・道具を使う課題をする。  
(トング・スプーン・箸等)
- ・洗濯たたみをする。
- ・準備ゲームで荷物の準備や後片付けの仕方を知る。

4歳

- ・トイレに行く時に伝える練習。  
(トイレカードを使用する)

- ・自分でトイレに行く。

5歳

- ・個々の必要に応じてのトイレトレーニングをする。
- ・和式トイレの使い方を知る。

### 安心できる環境作り

- ・好きな感覚に触れる。
- ・好きな玩具を見つける。
- ・好きな玩具で遊ぶ。
- ・安心できるスペースで過ごせる。
- ・個別スペースの活用することで刺激を少なくし、落ち着いて過ごす。
  - ・スケジュールを活用し、今することや終わりが分かる。
- ・活動内容が見て分かる事で見通しが持てる。
- ・構造化された環境で、自立して行動出来る。
- ・援助要請の仕方を知る。
- ・困った時、分からない時に人に伝える事ができる。

## 運動・感覚



### 主なねらい

- ①運動・動作の技能の向上
- ②姿勢保持の補助的手段の活用
- ③保有する感覚の活用
- ④感覚の特性への対応



2歳

### 姿勢保持の補助的手段の活用

- ・座位に必要な筋力や体格などの状態を見ながら、無理なく着席出来るように椅子・机・足台・箱型バケツで骨盤サポートなど個々に合わせて工夫する。

3歳

### 運動・動作の技能の向上

- ・親子体操で親子のスキップをとりながら体を動かす。
- ・好きな遊具を見つける。

- ・リトミックやサーキットをする。
- ・リズム体操で体を動かす。
- ・感覚遊具を使って体を動かす事を楽しむ。

- ・ムーブメントでボディーイメージを育てる。
- ・ミュージックケアで、リズムに合わせて色々な体の動きを感じる。

- ・まねっこゲームで体の動きを模倣する。
- ・運動コントロールの仕方を知る。

4歳

5歳

### 保有する感覚の活用

- ・保有する視覚・聴覚・触覚・嗅覚・固有覚・前庭覚の感覚を十分に活用出来るように遊びなどを通して支援する。

ニーズや必要性に応じて、理学療法士等の個別療育を受けることで多職種連携をする。

### 感覚の特性への対応

(視覚)

- ・今見る所に印や赤枠をつけるなど明確に知らせる。
- ・刺激となる物を見えないようにする。
- ・照明の明暗や光の調整をする。
- ・視覚提示の大きさ、量、見せ方(タイミング・位置)を個別化する。

(聴覚)

- ・イヤーマフをする。
- ・音あてクイズなどで色々な音源を知る。
- ・静かな場所に移動する。

(触覚)

- ・感覚に少しずつ慣れるようにマッサージ・こちょこちょ遊び・感触グッズを使って皮膚刺激をする。
- ・好きな触覚を使って安心できる環境を作る。

(嗅覚)

- ・好きな匂い・安心できる匂いを見つける。

## 認知・行動



### 主なねらい

- ①本人の認知や特性に合わせて望ましい行動や対応を知る。
- ②認知機能の発達を促す支援を行う。

2歳

個々に合わせた課題を行う

- ・手先の巧緻性を高める。
- ・色々な概念を知る。  
(色・形・数・文字・大小・長短など)
- ・手順書の理解が出来る。

3歳

望ましい行動や対応を知る

- ・自分の場所が分かる。  
(靴を置く場所・かばんを置く場所・座る場所・遊ぶ場所)
- ・手の洗い方が分かる。
- ・足形で待つ。

4歳

- ・順番を知る。(写真・赤枠)
- ・手順の理解をする。

5歳

- ・自分の気持ちを知る。
- ・順番を守る。
- ・ルールの理解をする。
- ・気持ちのコントロールの仕方を知る。
- ・相手の気持ち・状況を知る。
- ・援助要請の仕方を知る。

### 認知機能の発達を促す

- ・好きな事・得意な事・出来ることから始める。
- ・本人にとって手がかりとなっている手段を見つけ、そこからアプローチする。
- ・出来た時に褒めて自信に繋げる。

ニーズや必要性に応じて、理学療法士等の個別療育を受けることで多職種連携をする。

### 本人にとっての手がかりを見つける

- ・実物 (物、人)
- ・写真  
(本人写真・全体・ポイント)
- ・絵 (シンボル・動作イラスト)
- ・文字

### 提示の量

- ・全提示  
活動の流れを全て提示する。
- ・個々に応じた提示の量

例 (1つ提示・・・今する事)  
(2つ提示・・・今する事と次の事)  
本人の手がかりとなるようにする事が大事

### 提示の大きさ

- ・大きいのが良いのか、小さいのが良いのか、本人に見やすい大きさを探る事が大事。

### 視覚支援の工夫

- ・全体なのか、ピンポイントか、背景の色など個々に応じて視覚支援を工夫する。

## 言語・コミュニケーション



### 主なねらい

- ① コミュニケーションの基礎的能力の向上。
- ② 個々に合ったコミュニケーション手段を見つける。
- ③ 状況に応じたコミュニケーション。



2歳

### コミュニケーションの基礎的能力の向上

- ・要求を引き出す。

3歳

- ・要求の伝え方を知る。
- ・思いを伝える経験をする。  
(目線・指さし・動作・ジェスチャー・カード・言葉)

4歳

- ・拒否の伝え方を知る。
- ・他の人と玩具や場の共有をする。
- ・相手に思いを伝える方法を知る。

5歳

- ・相手に向かって思いを伝える経験をする。
- ・友達とのやりとりの仕方を知る。
- ・友達とのやりとりを経験する。
- ・援助要請の仕方を知る。

### 個々に合ったコミュニケーション手段を見つける。

- ・現段階での本人が持っている力を活かしながら個々に合ったコミュニケーション手段を探る。
- ・ジェスチャーや P E C S 等、言葉に代わる代替ツールの活用。
- ・必要に応じての促しや仲介、代弁等。

ニーズや必要性に応じて、言語聴覚士の個別療育を受けることで多職種連携をする。

### 状況に応じたコミュニケーション

- ・親子の愛着関係を育みながら安心して思いが出せる支援。
- ・個々のコミュニケーション能力の段階を踏まえた関わりを基本にスモールステップで支援する。
- ・本人の様子を見ながら思いに沿った関わり方の提供。
- ・本人に合ったコミュニケーションツールの活用と、状況が分かるような視覚支援。
- ・状況に応じて本人や相手の思いを代弁するなど仲介しながらやりとりの仕方を知らせていく。
- ・思いを伝えられたり、やりとりが出来た時には褒める事で成功経験を積み重ねて自己肯定感を育む。

## 人間関係・社会性



主なねらい

- ①アタッチメント（愛着）の形成と安定
- ②遊びを通じた社会性の発達
- ③自己の理解と行動の調整
- ④仲間づくりと集団への参加



2歳

遊びを通じた社会性の発達

- ・自分以外の人の動きに気づく。（一人遊びからの気づき）
- ・玩具や場の共有をする。（並行遊び）
- ・見本を見ながら見立て遊びをする。（模倣）
- ・ごっこ遊びの仕方を知る。
- ・遊びの中での役割分担等を経験する。（協同遊び）
- ・気持ちを知る。
- ・集団遊びに参加する。
- ・集団遊びの中でのルールや約束を知る。
- ・状況の理解をする。
- ・遊びの中で自分の気持ちや相手の気持ちに気づく。

3歳

4歳

5歳

### 自己の理解と 行動の調整

- ・本人の思いに寄り添いながら、自分で出来る事を見つける。
- ・苦手な事や分からない事は、一緒にしたり、手がかりを用意することで「わかった」「できた」の経験に繋げていき、どうすればいいのかを知らせていく。
- ・声、力加減、速度、気持ち等には大きさがある事を知らせる。
- ・リラックスの技を知る。（気持ちの切り替え方法）
- ・アンガーマネジメントの仕方を知る。

### アタッチメント（愛着）の 形成と安定

- ・人に信頼感が持てるように好きな玩具や活動を用意し、安心して過ごせる環境を作る。
- ・本人の思いに寄り添う事で、安心感が得られるような支援をする。
- ・親子で触れ合う機会を設定し、愛着関係を育む活動をする。（マッサージ・ふれあい遊び・親子体操など）
- ・好きな遊びや活動を一緒にする事で対人関係の芽生えを大事に育む。

### 仲間づくりと集団への参加

- ・一人ひとりの状態を見ながら、友達と遊ぶ機会を提供する。（促し・仲介・大人も交えて遊ぶなど）
- ・集団に参加する上での手順や約束を知らせる。
- ・互いの存在を認め合いながら仲間づくりに繋がるように支援する。